

矢嶋道文 著

関東学院大学名誉教授

好評発売中!



健康長寿のバイブル・永遠のベストセラー

『養生訓』の著者 貝原益軒が著した
真の“ライフワーク” 晩年・畢生の大作
『大和本草』への最良の道案内

ほんぞうがく

「本草学」とは、植物・動物・鉱物などの自然物を薬物(本草)として、その薬効・利用法を考究する学問です。古代から中国・朝鮮で発達し、江戸時代に日本独自の医薬学〈漢方〉が生まれる源流となり、扱う対象から今日の「博物学」に通ずる分野です。

〈本草学・博物学〉の金字塔『大和本草』

貝原益軒の『大和本草』は、中国本草学の集大成と言われる李時珍『本草綱目』(1596年初版)が収載する品目が日本では何に当たるかを検証・同定し、さらに未収載の日本の本草を加えた〈日本版『本草綱目』〉です。益軒は生涯にわたり、中国古代からの、加えて日本の、本草・医学から史書・地誌・百科・辞書など膨大種類の文献を読破、同時に国内各地で自身が実地見聞した研究成果を盛り込み、全16巻・附録2巻・諸品図3巻(1362種収録)にまとめ上げました(1709年、80歳。附録・諸品図は没後刊)。儒者・医者として、また科学者としての鋭敏な分析に満ちた『大和本草』こそ、益軒の真のライフワークであり、日本〈本草学・博物学〉の金字塔とされています。

『養生訓』さらなる味読へ

最晩年の著『養生訓』は『大和本草』があって生まれました。『養生訓』の深奥、“知の巨人”貝原益軒を理解するためには『大和本草』が必読です!



貝原益軒 享年85

1630(寛永7)～1714(正徳4)

*肖像は 医家先哲肖像集(藤浪剛一、刀江書院1936)より

特色

『大和本草』と貝原益軒
未知の人から専門研究者まで使える

- ①『大和本草』根幹部をなす薬物編(薬類・薬木)と医薬基礎理論編(自序・凡例・本草の書を論ず・薬を用いるの論)を素材に、益軒が本草学をいかに受容しているかを〈漢方〉の視点から読み解きます。
- ②わかりやすい「現代語訳」に原文の「書き下し」と「註」を付けています。『大和本草』全巻の現代語訳は、大部で専門語が多いためか、未だありません。主要部がまとめて訳された初めての書です。
- ③『大和本草』の成り立ちと益軒を理解するための基礎資料・背景知識が充実しています。
 - 1 『大和本草』全巻の収録品物目録
 - 2 本草書の根本『神農本草経』『本草綱目』概説
 - 3 『大和本草』と益軒の研究史概観
 - 4 「中日医薬学・漢方比較年表」(24ページ)は中国と日本の本草学・漢方の歴史上の主要人物・著作の小事典です。
 - 5 益軒と同郷の宮崎安貞『農業全書』との内容比較
 - 6 畏友の本草学者・稲生若水宛の新出書簡(影印)
 - 7 貝原益軒略年譜(9ページ)
 - 8 索引(書名・人名・地名・事項)

江戸時代庶民文庫

江戸時代のことなら、まず「江戸時代庶民文庫」へ
 教育・道徳・民衆・女性・子ども・老人・生活・風習・社会・産業・
 職人・風俗・
 芸能・医学・
 科学・経済・
 交通・地理・地誌・地域・宗教・絵画・美術・書道・出版…



全100巻
 別巻(翻)2
 (2012-22刊)

A5判・上製・クロス装

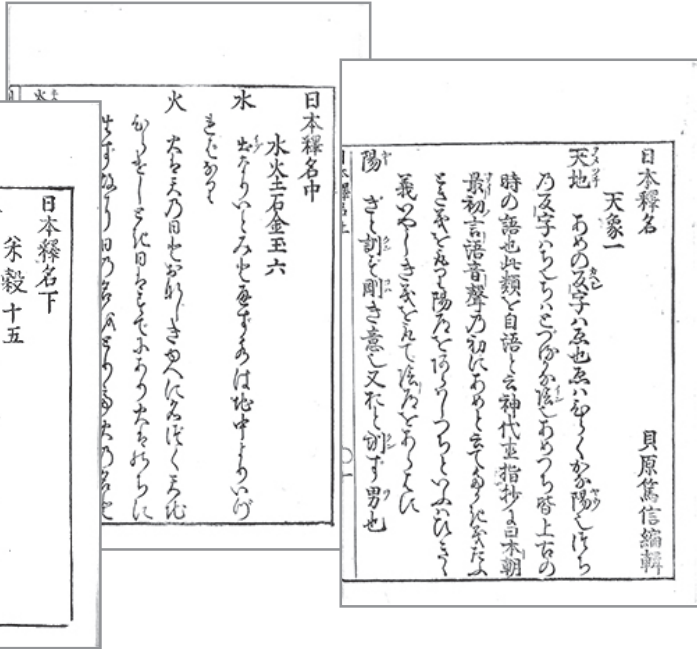
●収録資料 354点 ●総(影印)ページ約 39,000頁

「江戸時代庶民文庫」収録 貝原益軒の著作

第90巻【辞書】 [1点収録]

日本釈名 (にほんしゃくめい) 貝原篤信編・序。松下見林序。元禄13(1700)初刊。京都・茨城多左衛門板。▷後漢末・劉熙『釈名』にならい、和語を天象、時節、地理、宮室、地名、水火土石金玉、人品、形体、人事、鳥、獸、蟲、魚、介、米穀、草、木、飲食、衣服、文具、武具、雜器、虚字の23門に分け、『神代直指抄』『仙覚抄(『万葉集』注釈書)』等を参酌しながら約1100語の語源を解説。語源解釈上の8原則「自語」「転語」「略語」「借語」「義語」「反語」「子語」「音語」を設定し、諸説が考えられる場合には最も適切な説を冒頭に掲げる。近代の俗語をもって上古の言葉を解釈することなどを排除、難解な語を疑わしい語でみだりに解くべきでないことなど種々の注意を喚起する。

350頁 978-4-86688-090-7 (2020.11刊)
 本体 16,500円



「江戸時代庶民文庫」収録 本草関係書

第99巻【本草・植物】 [2点収録]

①《草形出生》草花絵全書 (くさかたがたしゅつせい) 伊藤伊兵衛三世画。元禄12年(1699)刊。「江戸」須原茂兵衛板。
 ▽日本の園芸文化の隆盛に寄与した元禄期、江戸染井村の園芸家・伊藤伊兵衛四世(1676~1757)が、父(1739没)の描いた草花123図に、草花の形状・色や異名など解説を施した図鑑。温室の花や切り花ではなく、野外に咲く自然の姿を描いた点に特色があると強調する。
 ② 本草図譜(山草部・芳草部) (ほんそうずふ) 岩崎常正作・序。岡田清福画。文政13年(1832)刊。「江戸」山城屋佐兵衛ほか板。
 ▽明の李時珍『本草綱目』(全52巻・付図2巻、約一九〇〇種収載)の貧弱な植物図に刺激され、自ら実見した約二千種の植物等を収録した本邦初の本格的な彩色植物図鑑。見開きで花卉を大きく描くなど大胆で迫力のある絵が多く、絵が主体の画期的な図鑑。全92冊。20余年の歳月をかけて文政11年に5~96巻が完成、同13年に最初の5~10巻が単色の木版刷りで出版された(底本はこの部分。後に改めて手彩色写本が制作された)。11巻以後は出版の目途が立たず、希望者に有償で手彩色の写本を予約頒布された。作者在世中に完成したのは56巻まで。

560頁 978-4-86688-099-0 (2021.10刊)
 本体 25,000円

